

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	おすすめメッセージ
安田 慎 先生	
① 図書名：カレー移民の謎：日本を制霸する「インネパ」 著者：室橋 裕和 出版社：集英社	日本各地、都市部でも非都市部でもあらゆる場所で見かけるようになったインド料理店。こんな辺鄙な場所で経営が成り立つのかな?と思いながらも、何故か増殖し続けて、私たちの日々の外食を支えるようになっている。 そんな私たちの日常生活の背後にある、グローバルなヒトやモノの動きを、フィールドワークを通じた現場の姿を鮮やかに描き出しながら、社会に問うていく一冊。
② 図書名：体験格差 著者：今井悠介 出版社：講談社現代新書	都市部と地方部の「格差」をめぐる議論のなかで、体験できることに差が生じるようになっていると言われる。しかし、それは本当に実態を示しているのだろうか? 著者は本書のなかでさまざまな統計データを駆使しながら、世間一般に言われる体験格差をめぐる言説の虚実を明らかにする一方で、日本国内に確かに存在する子どもの体験格差をめぐる問題を、インタビュー調査に基づくミクロな実態も明らかにしていく。そのなかで明らかになる「時間」をめぐる問題は、現代社会をめぐる大きな問題となるであろう。
③ 図書名：沖縄のもあい大研究：模合をめぐるお金、助け合い、親睦の人類学 著者：平野（野元）美佐 出版社：ボーダーインク	私たちの日常生活のなかでは、お金やモノの貸し借りがさまざまな形で行われている。現代では銀行をはじめとした制度化された金融業に取って代わられたものが多くあるものの、沖縄では人びとが定期的に集まって積立を行う、「模合（もあい）」と呼ばれる実践が、世代や社会階層を超えて盛んに行われている。なぜ現代社会において模合が行われているのか。その背後に横たわる人間社会における相互扶助や親睦をめぐる社会の在り方を、アフリカ研究者が切り込んでいく一冊。